

中学 3 年 国語科 教材別テスト⑪「初恋」

教材別リメイク版 中学 3 年 国語 / 近代の詩「初恋」

3 年 組 番 氏名 _____

【注意事項】

- 問題は「一」から「四」（P. 1～P. 7）までです。解答は解答用紙①②（P. 8～P. 10）に書きなさい。
- 大問四は、教科書『国語3』（光村図書）の「初恋」を開いて解答しなさい。
- 解答は、解答用紙の適切な欄に、ていねいに楷書で書きましょう。
- 句読点などの符号も一字と数えます。

知識・技能（50点）

次の——線部について、①～⑩は漢字の読みをひらがなに直し、⑪～⑳はひらがなを漢字に直して書きなさい。ただし、⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳は送りがなも必要なので、必ず書くこと。

1点×20＝20点

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 簡潔な説明。 | ② 恋慕の情をうたう。 |
| ③ 叙情詩を味わう。 | ④ 詩を朗詠する。 |
| ⑤ 繊細な感性。 | ⑥ 近代文学の系譜。 |
| ⑦ 浪漫的な作風。 | ⑧ 秋の実を愛でる。 |
| ⑨ 人を慕う心。 | ⑩ 夕日が空を彩る。 |
| ⑪ 平和のしょうちょう。 | ⑫ いんりつが美しい。 |
| ⑬ 深いよいんが残る。 | ⑭ 美しいこうけい。 |
| ⑮ せいじゅんな心。 | ⑯ ゆうがなしぐさ。 |
| ⑰ 音楽にとうすいする。 | ⑱ きょうしゅうをさそう。 |
| ⑲ こころよい風がふく。 | ⑳ うるわしい姿。 |

二

詩の形式と歴史的仮名遣いについて、次の問いに答えなさい。

2点×9=18点

- (1) 「初恋」の詩の形式としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 文語自由詩 イ 文語定型詩 ウ 口語自由詩 エ 口語定型詩
- (2) 口語自由詩の説明としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 行数が必ず四行ときまっている詩。 イ 漢字だけで書かれている詩。
- ウ 今の話し言葉で書かれ、音数のきまりをもたない詩。 エ 季語を入れるきまりがある詩。
- (3) 「初恋」の各行の音数を数え、この詩の音数律（音数のくり返しのきまり）の名前を、漢字三字で書きなさい。
- (4) 「初恋」は、いくつの連（聯）から成り立っているか。漢数字で答えなさい。
- (5) 「花ある君と思ひけり」の「けり」は、文語の助動詞である。その文法的な意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 打消し イ 推量 ウ 過去・詠嘆 エ 使役
- (6) 「あげ初めし前髪」「あたへし」の「し」は、ある文語の助動詞が変化した形である。その助動詞の言い切りの形（終止形）を、次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア き イ ぬ ウ たり エ り
- (7) 次の歴史的仮名遣いの語を、現代仮名遣い（ひらがな）に直して書きなさい。
- ① 思ひけり ② おのづから
- (8) 次の歴史的仮名遣いの語を、現代仮名遣い（ひらがな）に直して書きなさい。
- ① たまふ ② ゆゑ
- (9) 「問ひたまふ」の「たまふ」の意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア ～なさる（尊敬） イ ～してさしあげる ウ ～したい エ ～ではない

三

表現技法と文学史について、次の問いに答えなさい。

2点×6=12点

- (1) 「～のようだ」「～みたいだ」などの言葉を使わずにたとえる表現技法の名前を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩（明喩） イ 隱喩（暗喩） ウ 擬人法 エ 体言止め

- (2) 次の①～③の——線部に使われている表現技法の名前を、後のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。【完答】

① 風が泣いている。 ② 美しい、あの日の林檎畠は。 ③ 林檎畠の細道。

ア 直喩 イ 隱喩 ウ 擬人法 エ 倒置 オ 対句 カ 体言止め

- (3) 同じ言葉や似た言葉をくり返して、調子を整えたり印象を強めたりする技法の名前を、漢字二字で書きなさい。

- (4) 「初恋」の作者島崎藤村について、あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 江戸時代の俳人で、紀行文も書いた。 イ 明治から昭和にかけて活躍した詩人・小説家である。

ウ 平安時代の歌人で、和歌集を編んだ。 エ 大正時代の童話作家で、詩は書かなかった。

- (5) 「初恋」が収められている島崎藤村の第一詩集について、あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 『若菜集』。明治三十年に刊行され、日本の近代詩の新しい出発点となった。

イ 『若菜集』。昭和初期に刊行され、自然主義文学の代表とされた。

ウ 『落梅集』。『若菜集』よりも前に刊行された詩集である。

エ 『家』。藤村が最初に出した詩集である。

- (6) 次のうち、島崎藤村が後に書いた小説と、藤村とほぼ同じ時期に活躍した詩人の組み合わせとして正しいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小説『破戒』『夜明け前』 — 詩人 土井晩翠・北村透谷

イ 小説『坊っちゃん』『草枕』 — 詩人 土井晩翠・北村透谷

ウ 小説『破戒』『夜明け前』 — 詩人 松尾芭蕉・与謝蕪村

エ 小説『羅生門』『鼻』 — 詩人 高村光太郎・宮沢賢治

思考・判断・表現（50点）

四

教科書『国語3』（光村図書）の「初恋」を開いて、後の問いに答えなさい。（参考として、下に詩の全文を示す。）

50点

初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
わがころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな
林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

※ 島崎藤村「初恋」は、著作権の保護期間が満了した作品です。

（1）第一連に描かれている場面の説明としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。 4点

- ア 林檎の木の下に現れた少女の姿を、「われ」が心にとめている場面。
- イ 少女が林檎の実を売っているのを、「われ」が遠くからながめている場面。
- ウ 「われ」が少女に別れを告げ、林檎の木の下を立ち去る場面。
- エ 少女が「われ」に手紙をわたし、返事を待っている場面。

（2）「まだあげ初めし前髪」という表現から読み取れることとしてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

- ア 少女がすでに結婚し、落ち着いた暮らしをしていること。

- イ 少女が髪を結い上げ始めたばかりで、子どもから大人になりかけた年ごろであること。
- ウ 少女が髪型にまったく関心をもっていないこと。
- エ 少女が「われ」よりずっと年上であること。

初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
わがころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな
林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

※ 島崎藤村「初恋」は、著作権の保護期間が満了した作品です。

(3) 「花ある君」とは、どのような意味か。あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

3点

- ア 花をたくさん育てている人。 イ 花を売って生活している人。
ウ 花櫛をさした、花のように美しくかがやく人。 エ 花の名前を知らない人。

(4) 第二連の「人こひ初めしはじめなり」は、どのようなことを告げているか。あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 4点

- ア 少女が「われ」に恋をあきらめるよう告げたということ。
イ 「われ」が、人を恋するというのを初めて知った、その始まりであったということ。
ウ 「われ」が、もう何度も恋をしてきたということ。
エ 二人の恋が、人々に知られてしまったということ。

(5) 第二連で、少女が「われ」に林檎をわたしたときの様子を表した言葉を、詩の中からそのまま書き抜きなさい(十一字)。 3点

初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
わがころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな
林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

※ 島崎藤村「初恋」は、著作権の保護期間が満了した作品です。

(6) 第三連に流れている二人の時間の様子として、あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 4点

ア けんかをして気まずい、はりつめた時間。 イ 別れを前にした、悲しくつらい時間。

ウ 寄り添い、酔うような甘やかで満ち足りた時間。 エ 早く帰らなければとあせる、落ち着かない時間。

(7) 第四連の「おのづからなる細道」は、どのようにしてできた道だと考えられるか。あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 村の人々が畠仕事のために作った道。 イ 二人が通い続けたために、いつのまにかできた道。

ウ 風や雨によってけずられてできた道。 エ もともと林檎畠にあった大きな道。

(8) この詩は、各連が、ある時間の流れにしたがって並べられている。その順序としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 思い出 → 出会い → 恋の自覚 → 親密

イ 出会い → 恋の自覚 → 親密 → 思い出
ウ 恋の自覚 → 出会い → 思い出 → 親密
エ 親密 → 思い出 → 出会い → 恋の自覚

初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

※ 島崎藤村「初恋」は、著作権の保護期間が満了した作品です。

(9) 「薄紅の秋の実」(林檎)は、この詩の中でくり返し用いられている。それは何を表すものとしてはたらいっているか。「～こと。」の形で書きなさい。 5点

(10) 最終行「問ひたまふこそこひしけれ」には、「われ」のどのような気持ちがこめられているか。「～気持ち。」の形で書きなさい。 6点

(11) この詩の主題を、二十五字以上四十字以内で書きなさい。 6点

(12) この詩が文語(昔の書き言葉)で書かれていることには、どのような効果があると考えるか。あなたの考えを四十字以上五十字以内で書きなさい。 6点

解答用紙① 知識・技能

教材別リメイク版 中学３年 国語 / 教材別テスト⑪「初恋」

３年 組 番 氏名 _____

知識・技能 小計

一 漢字 (１点×20)	①		②	
	③		④	
	⑤		⑥	
	⑦		⑧	
	⑨		⑩	
	⑪		⑫	
	⑬		⑭	
	⑮		⑯	
一 (つづき)	⑰		⑱	
	⑲		⑳	

解答用紙①（つづき） 知識・技能

教材別リメイク版 中学3年 国語 / 教材別テスト⑪「初恋」

3年	組	番	氏名	_____
----	---	---	----	-------

二 詩の形式と 歴史的仮名遣い (2点×9)	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)①		(7)②	
	(8)①		(8)②	
	(9)			

三 表現技法と 文学史 (2点×6)	(1)			
	(2)①		(2)②	
	(2)③		(3)	
	(4)		(5)	
	(6)			

※ 二(7)(8)は①②の両方、三(2)は①②③の全部が正しく書いて得点になります（完答）。

解答用紙② 思考・判断・表現

教材別リメイク版 中学3年 国語 / 教材別テスト⑪「初恋」

3年	組	番	氏名	
----	---	---	----	--

思考・判断・表現 小計

合計（100点満点）

四 「初恋」 （島崎藤村） の読解 （50点）	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)			
	(6)		(7)	
	(8)			
	(9)			
	(10)			
	(11)			
	(12)			

※ 記述問題は、解答欄におさまるように、ていねいな字で書きなさい。句読点も一字と数えます。（9）は「～こと。」、（10）は「～気持ち。」の形で書くこと。（11）は25～40字、（12）は40～50字です。

